

**福岡県飯塚市【5月29日】**  
▼子育て支援

飯塚市では、休日の子育て支援として、保護者が仕事や冠婚葬祭、病氣、介護等により日曜日や祝日に家庭で見ることができない児童を一人当たり5時間未満500円、5時間以上1000円で預かっている。また、子育て短期支援として、保護者が家庭で就学前の子どもを養育することが難しくなったときに、市が契約をしている施設でショートステイ(宿泊)・トワイライトステイ(平日夜間・休日昼間)を行っている。利用者は少ないが、利用している人にとっては切実な問題が解消されている。

岩沼市においても、土日祝日の子育て短期支援の環境づくりが必要になってくる。また、休日の子育て支援についても受け入れる整備環境も必要と考える。

**福岡県古賀市【5月30日】**  
▼不登校児童・生徒のサポート

古賀市では、「あすなる教室」として、いろいろな事情から学校に行けなくなった児童生徒への支援として、

体験活動や自主活動を通じて、人間的成長と社会自立を促し援助を行っている。集団生活に適応できるよう

に指導・援助をしながら、児童・生徒の学校復帰を目指している。子どもたちは体験活動や日常の生活の場で少しずつ笑顔が見えるようになってきている。また、在籍校に復帰したケースもあるほか、高校に進学した例もあった。

岩沼市においても、今年度から心のケアハウス事業を展開するが、あすなる教室で行っているヤングアドバイザー(学生ボランティア)の活用も必要と考える。勤労者活動センターで行われるが、状況をしっかりと把握して子どもたちの心の負担にならないように配慮すべきである。



飯塚市で調査する委員

**建設産経常任委員会**

**京都府宮津市【5月14日】**  
▼空き家対策

宮津市は日本三景の天橋立を有しているが、近年宿泊客数は減少し、観光産業も含めて地場産業は大変厳しい状況にある。その中で、人口減少を食い止めるため、「宮津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、空き家への移住、空き店舗への新規出店に手厚い財政的支援と情報提供を行うなど、着実な実績を上げている。

岩沼市における空き家対策は、問題が深刻化する前に早めのリサーチ、対策を進め、「岩沼の特色である」交通の利便性」や岩沼ならではの「生活環境の良さ」を前面に打ち出し、岩沼の住み良さをより強くアピールして取り組むべきであると考える。

**兵庫県丹波篠山市【5月15日】**  
▼シテイプロモーション

丹波篠山市ではいち早く人口減少社会を見据え、まちとしての価値の転換を図りつつ、移住・定住につな

がる取組を行ってきた。全国でもトップクラスといえる空き家対策、若者定住支援、就労支援が行われており、また、その中でも若者の移住、定住を重点的に支援し、働き盛り・子育て世代を呼び込む取組を展開している。

一例としては、神戸大学との官学連携事業の半学半域型の地域おこし協力隊制度の導入を積極的に進め、その中から定住につながる事例も出ており、これまでの取組に一定の成果が感じられる。

岩沼市においても、子育て支援施策のみならず、若者世代の獲得のための施策はさらに重点的に行われるべきであり、他市町とは違った、まだ埋もれている岩沼市の良さ、強みを再認識し、モデル地域を選定して地域の特性を生かした定住支援・促進の取組をスタートしてみることも早過ぎない取組であると考えている。

**兵庫県三田市【5月16日】**  
▼地域特産物のブランド化及び販路拡大

三田市は都市近郊で人口が増加するまちでありなが

ら、多様な農畜産物があり、「第四次三田市農業基本計画・三田市食と農の振興ビジョン」に基づき、そのブランド化と地産地消の取組が進められている。

岩沼市においては東日本大震災後に農業主産物である米づくりの大規模農業化が進み、農業の在り方が大きく変わってきた。市内の各法人で個々に販売促進やブランド化を行っているが、市としても一元的にプロモーションする取組を行うことはどうかと考える。また、三田市で行っているような転入者へのお米配布事業など、地産地消促進につながる取組も研究を進めていくべきと考える。



宮津市で調査する委員